



上川井だより

令和4年8月29日
横浜市立上川井小学校
校長 山崎 真紀子

9月号

いざというときのために

明け方から競うように蝉しぐれが聞こえてくる日が続いていましたが、気付くと夕暮れには鈴虫が心地よい音楽を奏でるようになってきました。長い夏休みも過ぎてみるとあっという間です。

学校には元気な子どもたちの笑顔と弾んだ声もどってきました。3年ぶりの制限のない夏休みではありましたが、保護者の皆様は健康管理に気を遣いながらの毎日でご苦労が絶えなかったと思います。また、夏休み中のうさぎボランティアへのご協力をありがとうございました。世話してくださったおかげで、ウサギたちも元気に夏を過ごすことができ、大変感謝しております。

さて、夏休み中は、先生たちはどんな風に過ごしているのだろうと子どもたちに聞かれることがあります。授業はお休みですが、特別支援教育への理解や不祥事防止のための話し合いを行ったり、不審者への対応訓練をしたり、毎日様々な研修を行っています。さらに、学習指導要領や授業改善に向けて、教育課程について学び、それぞれ学んだことを報告しあう会議も行います。閉庁日前後は、こうした勉強会や会議が連日続きます。

そうした中で、安全研修として防災研修に参加しました。昨今の自然災害は、経験したことのない甚大な被害をもたらすものが少なくありません。今年の夏も北日本に豪雨による甚大な自然災害が発生しました。被害にあわれた方々の生活が一日も早く取り戻せるよう願ってやみません。

今回の研修は、市の防災センターで水害をテーマに行われました。川が氾濫して道路が浸水したらどうなるかシュミレーターで確認したり、流れる水の中を歩いたりしました。わずか40センチほどの水嵩でも、ドアにかかる力は65kgほどになり、ドアを開けて逃げるのが困難になります。また、たとえ開けることができても一気に水が流れ込んでくるため、足をすくわれる危険があります。体験は、きれいな水道水で行いましたが、実際の災害では泥水で足元が見えず、一緒に流されてきた様々なものが障害物として体にあたる可能性が極めて高いことが想像できます。濁流のため、マンホールや側溝にも気付くにくく、小さな子供は穴に落ちてしまったり、吸い込まれてしまったりする危険もあります。そうした危険を避けるために、早めの避難が望まれますが、日頃から防災意識を高くしておかないと実際の避難行動にはつながりにくいそうです。

本校では、防災意識を高め大切な命を守るように、9月には毎年防災総合訓練を行っています。この訓練は、大地震を想定した訓練です。コロナ禍のため、地域とともに行う避難訓練は今年度も中止となりましたが、学校の避難訓練は予定通り行います。今年度は、町内会長さんのご協力で起震車を用意していただきました。自分事として大地震への備えについて考え、具体的な行動につなげていければと思います。市では、マイ・タイムラインという避難行動計画を書き入れるシートを配布しています。ぜひ、この機会にご家族で大地震や台風、大雨に備えた避難行動計画について話し合ってください。学校でも、訓練を通して具体的な場面を想像し、判断する力を育て、安全で速やかな避難ができるようにしていきたいと思います。